



# 高輪だより

平成30年度2月号  
港区立高輪幼稚園  
園長 柿沼 敦子

## 地域や幼稚園で育ち合う

高輪幼稚園長 柿沼 敦子

今年度も残り2か月となり、年長組の登園日数は残すところ30日です。

先日の幼稚園評議員会では今年度の保護者アンケートの結果を報告し、協議会を行いました。評議員さんから「保育園、小学生や中学生との交流は互惠性があり、園内の異年齢交流も盛んで成長につながる」「1学期の姿と比べると現在の姿は経験を積み重ねてきていることで成長がみられる」「桂坂を花いっぱいにする会は、地域の交流の場になっている」「先生たちの園児への愛情を感じる」「誕生会で年長児が司会をするなどの経験の積み重ねは、人前で自分を発揮することにつながる」「キャリア教育の基礎を培うために、幼児が夢中になっていることや良いできごとなどを伝えていくことが大切である」など活発な協議が進みました。最近の活動や園生活からそのような子どもたちの姿をお知らせします。

年長組の給食体験の交流では、お兄さんお姉さんと再会できたことが何よりもうれしく、それは5年生も同じ気持ちだったようで、会った瞬間から笑みがこぼれ、直ぐに優しい雰囲気のおしゃべりが始まりました。学校探検や5年生の企画した遊び、給食まで5年生の温かい声掛けやしぐさの中で心地よく小学校生活に期待を膨らます時間を過ごしました。

「桂坂を花いっぱいにする会」は年中組が活躍しました。3回目ともなると自分で進められるようになり成長を感じました。4月に同じく年長になる高輪保育園のとんぼ組と出会い「いつか一緒に遊びましょう」と交流への期待が膨らみました。

誕生会後の保護者シェアトークで年中児のお母さんが「年長さんが誕生会で司会をする姿は立派で感動しました。来年できるかしら」とすると、年長児のお母さんは「年中の時は想像できませんでしたが、年長さん、みんな立派になっていました。家でも自分で司会の言葉やポーズを練習をしていました」と、年長さんらしい姿を伝えていました。

年少組は自分で作ったマラカスを鳴らして曲を聴きながらリズム遊びを楽しんでいます。ランランタイムから帰ってきた年長組を見つけると「お帰りなさい」と言いながらマラカスを自慢気に振って見せました。「上手にできたね」と褒められて大満足の表情でした。

今後も子どもたちの成長する姿や夢中になって遊んでいる姿をご家庭や地域に発信していきます。港区の目指す、「夢と生きがいをもち、自ら学び、考え、行動し、未来を創造する子ども」を一緒に育てて参りましょう。よろしく願いいたします。

<年長> 5年生との交流

「給食おいしいね」「1年生が楽しみ」



<年中> 桂坂を花いっぱいにする活動

「3年生も保育園も一緒にうれしいね」



<年少> 遊びの中で自分を表現する

「年長さん見て、マラカスつくったの」

